


しが CO₂ ネットゼロみらい賞 表彰制度

滋賀県 総合企画部 CO₂ ネットゼロ推進課



**しがCO₂
ネットゼロ
ムーブメント**

—しが CO₂ ネットゼロムーブメント・ロゴマーク—
このロゴマークは「ゼロ」を円グラフモチーフで視覚化しており、「CO₂ 排出量を表す左側（イエロー）」と「CO₂ 吸収量を表す右側（グリーン）」が均等になったネットゼロの状態を表しています。現状は排出量が多い状態ですが、「排出＝吸収」すなわち「ネットゼロ」の状態を目指すことをコンセプトとしています。

1. 滋賀県の CO₂ ネットゼロ社会 づくりの取組について

2050 年「CO₂ ネットゼロ社会」を目指して

急速に進行する地球温暖化が豪雨や猛暑のリスクを高めるなど、気候変動の影響はより厳しさを増しています。琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や、そこで育まれている貴重な生態系、そして県民生活にも脅威が差し迫る中、本県では、令和 2 年（2020 年）1 月に、温室効果ガスの排出量を令和 32 年（2050 年）までに実質的にゼロとすることを目指し、「しが CO₂ ネットゼロムーブメント」のキックオフ宣言を行いました。

国際的にも、令和 3 年（2021 年）11 月に開催された国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議（COP26）において、産業革命以前からの気温上昇を 1.5 度に抑える努力を追求することが合意されるなど、世界が一丸となって気候変動対策を強化していくことが求められています。

本県では、CO₂ ネットゼロの実現に向けた取組

を通じて、健全で質の高い環境の確保、県民生活の向上および経済の健全な発展を図りながら持続的に発展することができる社会「CO₂ ネットゼロ社会」の実現に向けた取組を進めています（図-1、2）。

私たち一人ひとりが「自分ごと」として危機感を共有し、自らのライフスタイルを転換するとともに、これまで琵琶湖の環境保全で培ってきた高い環境意識と行動力、県内に集積する製造業の技術力や大学等の知的資源、近江商人に受け継がれてきた「三方よし」の精神など、有形無形のさまざまな資源を総動員し、県民、事業者、各種団体、行政が連携して「しが CO₂ ネットゼロムーブメント」を展開することで、持続可能で豊かな

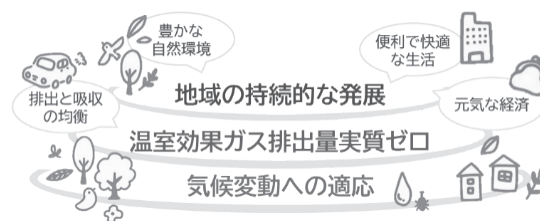


図-1 「CO₂ ネットゼロ社会」とは

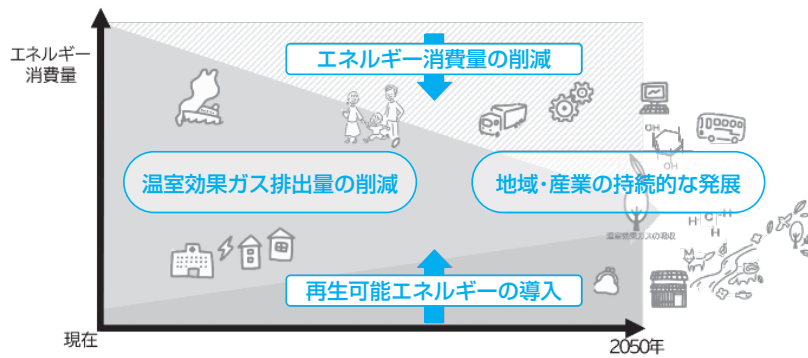


図-2 CO₂ ネットゼロ社会づくりの取組のイメージ

社会「CO₂ ネットゼロ社会」を実現し、次の世代に引き継いでいきたいと考えています。

2. 「しがCO₂ ネットゼロみらい賞」とは

この表彰制度は、CO₂ ネットゼロ社会づくりに関する、県内の優れた取組を行った個人や事業者、団体の功績をたたえるとともに、好事例として広く紹介することで取組等の「見える化」を図り、ムーブメントの輪を広げることを目的として、今年度、新たに創設しました。

(1) 先進導入・実践部門

事業活動において先進的な設備の導入や創意工夫を凝らした省エネルギーの実践等により、CO₂ の排出を削減した事業者の取組を表彰

(2) 製品・サービス部門

社会全体のCO₂ 排出量削減に貢献する県内発の製品・サービス等（商品化されていないもの、技術を含む）を表彰

(3) 地域づくり部門

CO₂ ネットゼロ社会づくりを推進するための、個人、団体などが行う環境学習・普及啓発等の取組を表彰

3. 令和3年度受賞者の取組等紹介

初年度となる令和3年度は、「先進導入・実践

部門」においては、アストラゼネカ株式会社米原工場および甲陸ロジスティクス株式会社の取組、「製品・サービス部門」においては、川重冷熱工業株式会社滋賀工場およびHIJ. 株式会社の製品、そして「地域づくり部門」においては、近江八幡市桐原学区協働まちづくり協議会の取組が表彰されました（写真

－1）。受賞者の取組等については、下記の滋賀県ホームページよりご覧ください（<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/ondanka/318341.html>）。



写真－1 表彰式の様子

ここでは、受賞者の中から建設業であるHIJ. 株式会社の製品や取組をご紹介します。

今回受賞した製品「サスティナブル木材乾燥庫【PARITTO II】」は、太陽熱とヒートポンプ熱源を組み合わせた乾燥方法と、集熱性・蓄熱性を強化しサスティナブルなエネルギーの利用効率を引き上げることで、現在主流の重油や灯油等を利用した乾燥機に比べ、エネルギー消費量で89%、CO₂ 排出量では79.8%の削減が見込まれます（※太陽熱を利用しているため、季節や天候などの条件により変動があります）。

製品の特長として、太陽光を極力多く採り込み、太陽熱（赤外線）として傾斜壁や床面に蓄熱する構造になっており、冬でも天気の良い日は庫内温度が50℃を超え、ヒートポンプに頼らず乾燥を進められます（雨や曇りの日、夜間に庫内温度が下がったときのみ補助暖房のヒートポンプ式エアコンが稼働）。

CO₂ ネットゼロには、排出削減のみならずCO₂の吸収源対策として地元産木材を積極的に活用し再造林を促すことが重要であり、その両輪を兼ね備えたCO₂ ネットゼロに貢献する製品として表彰されました（写真-2, 3）。

HIJ. 株式会社は、2020年に株式会社ひらつか建築から分社化しスタートした新しい会社です。株式会社ひらつか建築は高性能な住宅を地域に根差して展開する工務店であり、HIJ. 株式会社はそこで開発された非住宅のプロダクトを全国に向けて発信・展開する会社です。住宅の環境性や省エネルギー性の向上は近年急激な進歩をみせ、住まい手、作り手ともにそれらへの意識は非常に高



写真-2 PARITTO IIの外観



写真-3 PARITTO IIの内観

くなっています。住宅建築（民生部門）で得られた知見、培った技術を産業部門における環境への取組や省エネルギー化にフィードバックし、活用できると確信され、省エネ製品や環境負荷軽減技術を、環境建築研究家 岡田好勝氏の監修を得て、開発・販売をスタートされました。

HIJ. 株式会社が展開する製品の全ては、省エネルギーの実現による環境負荷の軽減を目的に開発されています。今回受賞した製品以外にも、エネルギーの消費削減、森林資源の活性化につながる「超省エネ次世代保冷倉庫【HOZONE】」や、地域の森林資源の有効活用方法として開発された製品「タイニーハウス【WOW】」は、地域資源の六次化を環境負荷の低減を図る手法で実現させたビジネスモデルです。

これらの構造は木造で、内装の仕上げを国産材（地域産材）によって行っています。国産材（地域産材）を有効に活用することで資材調達に掛かるウッドマイルズを縮小することもでき、環境性の高い製品であるといえます。

このようにHIJ. 株式会社では、「環境」、「エネルギー」、「地球」をテーマにより良い未来への創造に役立つプロダクトを建築の視点で展開されています。

今後に向けては、コロナ禍によってモノの流れ・動かし方は大きく変化しており、一次産業における生産現場での保管業務の必要性や、流通業界での保管床数の慢性的な不足等による建設ニーズの高まりを受け、公共建築物だけではなく民間の大型建築物の木質化いわゆる「ウッドチェンジ」を契機に、広く普及に取り組まれる方針です。

4. 表彰制度の今後に向けた取組

今回ご紹介したような受賞者の取組や製品を広く展開していくことで、本県から将来のCO₂ ネットゼロ社会を支える取組や製品、県民や事業者等の主体的な行動を広げ、人も社会も自然も健康で持続可能な共生社会への転換を目指します。